

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2025年3月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



2024年度、最後の「子森通信」をお届けします。

今月号では、新年度の主な活動計画案をご案内しました。

保育・幼児教育の環境は、これからますます厳しい時代を迎えます。

J P子どもの森づくり運動では、これからも参加園の皆さんの活動を

少しでも支援させていただきたいと思っております。

2025年度もよろしくお願い申し上げます。

写真は、春を待つどんぐりたち。間もなく芽吹きます。

(目次)

1. J P子どもの森づくり運動 2025年度活動計画案
2. 「全国集会&研修会2025」活動レポート（2日目：保育防災研修会）
3. リレーエッセイ（2025年3月号）

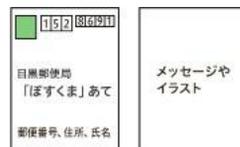
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. JP子どもの森づくり運動 2025年度活動計画案

「JP子どもの森づくり運動」2025年度の主な活動計画案をお知らせします。まだ案の段階ですので、今後、変更があり得ますのであらかじめご了承ください。詳細は、子森通信の次号でご案内します。

1) 東北復興グリーンウェイブ2025～活動のふりかえり～

東日本大震災の翌年の2012年より、「東北の森の緑の復興」と「全国の子どもたちをどんぐりの絆で結ぶ」ことをミッションとしてスタートし、今年13年目となる「東北復興グリーンウェイブ」の活動は、当初の役割を果たしたとして、2026年の「鎮魂の森」(*注)への植樹を区切りとして、活動を終了させていただきますことになりました。

活動を終了するにあたり、「東北復興グリーンウェイブ」はどのような成果をあげることができたのか、活動にご参加いただいた多くの参加園の皆さんと共に、2025年度1年間をかけてふりかえりたいと思います。なお、岩手県大槌町での2025年の植樹会は、例年と同じく5月に開催されます。



※2023年大槌町植樹会

*注：鎮魂の森「あえ～る」

岩手県大槌町において、森づくりによって、東日本大震災津波に関する「追悼・鎮魂」の想いを次世代に伝え続ける場として2025年7月に完成。2026年に、東北復興グリーンウェイブのどんぐりの苗木も植樹される。

2) 保育者支援活動

2025年度も、下記の内容で保育者支援活動を実施します。

●自然体験活動支援

◆「どんぐりSDGs劇団」の活動を継続します。

子どもたちにお芝居の力で「環境の心」を育む「どんぐりSDGs」劇団の活動を継続します。劇団の来園ご希望の方は、子森ネットまでお申込みください。

◆自然体験活動における危機管理をテーマにオンライン講座を開催します。

*開催時期：2025年8月（※詳細は次号にて案内）

*講師：札幌大谷大学短期大学部 教授 田中 住幸先生（右写真：田中先生）



◆共用フィールドの活用を推進します。

子どもの森づくり運動の障害となるのが植樹地の確保の難しさです。子森ネットでは、以前より「種苗の移動ガイドライン」(*注：右QRコード参照)に則って、ブロック単位で活用できる共用の植樹フィールドの開発に務めています。2024年度には、もっとも植樹フィールドが不足している首都圏・関東エリアを対象とする共用フィールドを千葉県に確保することができました。



●園庭緑化運動

◆モデル園活動を継続します。

2025年度は、第2期モデル園活動において成果が育まれる最終年となります。そこで育まれた園庭緑化・自然化における実践的な知見を参加園に向けて発信します。

◆園庭緑化の普及を目的に、オンライン講座を実施します。

園庭の緑化・自然化の普及を目的に、2025年度もオンライン講座を開催します。

2025年度の講座では、待望の、お茶の水大学 特任教授の宮里 暁美先生のオンライン講座を開催します。（右写真：宮里先生）詳細は、次号でご案内します。



●保育防災アクションマイスター認定講座

「保育防災アクションマイスター認定講座」は、2024年度までに52名の「保育防災アクションマイスター」を輩出しました。活動は、保育・幼児教育関係者の中で大きく広がっています。現在、2025年度生（第5期）の参加園（者）を募集中です。参加ご希望の方は、募集締切が迫っておりますのでお急ぎください。募集概要は、右のQRコードからご覧いただけます。



3) こどもの森づくりフォーラム

JP子どもの森づくり運動とミッションを共有し、共に森づくり活動を推進するための全国運動「こどもの森づくりフォーラム」が、埼玉県、愛媛県に続き、2025年は、奈良県で開催されます。本事業は、林野庁、国土緑化推進機構と共に、子森ネットが運営事務局を担当します。ご興味のある方は、ご参加ください。

◆ 日時：2025年11月15日(土)、16日(日) ◆ 会場：奈良市ならまちセンター、馬見丘陵公園、他

◆ 講師：学習院大学 教授 秋田 喜代美先生、上越教育大学大学院 教授 山口 美和先生、他

※詳細は、ホームページ（準備中）をご参照ください。

4) 子森通信について

子森通信は、内容の充実を目指して、**2025年度より年6回の隔月発行とさせていただきます**。発行は、5月、7月、9月、11月、1月、3月の初旬を予定しております。引き続き、参加園の活動紹介や、より良き保育のための有益な情報提供に務めますのでよろしくお願い申し上げます。

2. 「全国集会&研修会2025」活動レポート（2日目）～実践に学ぶ保育防災研修会～

JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2025」が、2025年2月24日(月)、25日(火)に福井市で開催されました。先月号に続き、今月号では、保育防災がテーマの2日目のレポートお送りします。なお、今回の保育防災研修会は、保育防災の普及振興を目的に開催される「第2回保育防災サミット」を兼ねて開催されました。詳細は、ホームページをご参照ください。

●基調講演

基調講演は、「能登半島地震」で被災しながら、園を避難所として地域の被災者を受け入れる活動を実践された、石川県穴水町「平和こども園」の日吉園長にお願いしました。



●パネルディスカッション

基調講演と「保育防災認定講座」受講園8園の活動発表を踏まえて、保育防災の今後について議論するパネルディスカッションを実施しました。

* パネラー：穴水保育園 日吉園長 / 若草青い鳥保育園 岡村園長

あかまえこども園 小関園長 / タフ・ジャパン 鎌田代表

* コーディネーター：子森ネット 塚原



●「保育防災認定講座」アクションマイスター認証式

全国研修会での活動発表を終え、今年も第4期の受講生全員がアクションマイスターとして認証され、「保育防災アクションマイスター」の認証状と認証バッジが贈呈されました。



3. リレーエッセイ (2025年3月号)

広島県「さざなみの森こども園」の高田 憲治先生による3回目、最終回のリレーエッセイです。3回共、心を揺さぶられる刺激的なエッセイをご提供いただきました。御礼申し上げます。エッセイについて、皆様からのご意見をお寄せください。

学びの連続性

さざなみの森こども園 副園長 高田 憲治



弥生・3月、幼児期に「世界との対話」を繰り返してきた子たちは、新たに出会うヒト・モノ・コト・トキとのさらなる深い対話を重ねていくと信じ、背中を見送る季節。さざなみの森でも68名が巣立ちました。

遡ること1月、近隣校との「幼小連絡会」に参加しました。「滑らかな接続」「架け橋」「アプローチカリキュラム」といったワードが飛び交うも、具体的な話になると、「教室に入らない」「時間割を守れない」「椅子に座れない」ことをプロブレムと捉え、「クラスのみみんなで一つのめあてに向かう」ことを早期実現することが連携のゴールとする等、旧態依然。保育の営みとは未だ「真逆」であることを再確認。「主体性」「ダイバーシティ」「インクルージョン」「プログラミング」も、結局はカリキュラムに縛られ、コンテンツ化し、消費されていくのか、いや、嘆くだけでは何も生まれない、今何ができるか、と自問自答しながら帰路につきました。

中教審は、「予測困難な時代」の「未来の創り手」(注1)を育むため、0から18歳までの学びの連続性をベースに、「個別最適」「協働的」「主体的・対話的」な学びの実現に向けた道標を示しています。これらは、既に保育のスタンダード。つまり、連続性を保障するために変わるべきは小学校現場。80年来の学校文化の変容は難しくとも、希望の光を投げかけるのがオルタナティブスクールのうねり。サマーヒルの誕生から百年余、国内でも新教育運動以降、様々な試みが興り、淘汰、蓄積されてきました。



夢みる校長(注2)も各地で奮闘中。広島県東部では、イエナプランによる公立小(注3)や「きのくに」(注4)をモデルとする「小中学校」(注5)が相次いで誕生しています。「学校が変わらなければ、創る」という開拓者の姿、その取組みのうねりが、変わりたいのに変わらない公立学校の変容、進化、脱皮を後押しし、オルタナティブがスタンダードになる日は、いばらの道の向こう側ではあっても、遠くはないと信じています。

(注1) 令和3年 「今求めらえる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省

(注2) 令和4年 映画「夢見る 公立 校長先生」 監督 オオタヴィン

(注3) 福山市立常石ともに学園 (注4) 学校法人きのくに子どもの村学園

(注5) 学校法人庄原子どもの夢学園 川北こどもの夢小中学校

※高田先生近況情報

高田先生が、2025年4月より、「さざなみの森こども園」の園長に就任されます。

